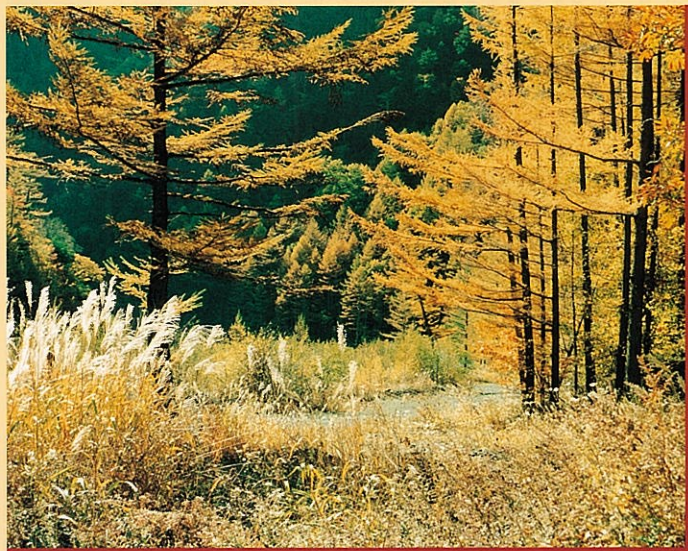


緑の宝



2000
秋号
No.17



カラマツの紅葉（大井川西俣）

目次

| | | | |
|----------------------------|----|--------------------------|----|
| 開園に向けて 小笠山総合運動公園 | P2 | 支部だより | P5 |
| 静岡県都市住宅部小笠山運動公園整備室室長 大村 昌久 | | 西部支部 | |
| 本部だより | P3 | 我が社の自慢 | P6 |
| 受験対策講習会を開催 | | 豊かな自然を未来へ、郷土種による緑化 | |
| 自然環境復元講座を開催 | | 植樹林内の樹木枯損防止のための地温上昇抑制の試み | P7 |
| シニアワークプログラム事業ニヶ所完了 | P4 | 話題の森・お知らせ・編集後記 | P8 |
| しずおか緑・花・祭出展内容を熱っぽく議論 | | | |
| 委員会だより | P5 | | |
| 園芸博覧会場の土壌調査を実施 技術委員会 | | | |

開園に向けて 小笠山総合運動公園



静岡県都市住宅部
小笠山運動公園整備室
室長 大村哲久

平成十三年の春、袋井市と掛川市にまたがる小笠山の丘陵地に建設中の小笠山総合運動公園がいよいよ開園します。

平成元年度に策定した「静岡県土新総合公園構想」を受け、来るべき二十一世紀に向けて県民のスポーツと健康づくりの拠点を目指した大規模なスポーツ公園の構想は、平成四年度の小笠山北西麓への建設場所決定、平成六年度の都市計画決定並びに事業認可、農用地の除外、保安林の解除などの諸手続きを経て、国有林や民有地の取得、大規模な造成工事、スタジアム建築工事と進み、足掛け七年を掛け「小笠山総合運動公園」として実現することになりました。

この間、投下した経費は、スタジアムの建設費の三〇〇億円をはじめとして、アリーナに一〇〇億円、関連道路の整備に二五〇億円など合わせて約一〇〇〇億円になろうとしています。オリンピックをしのぐといわれるワールドカップサッカーや国体の開催を見込んでの建設とはいえ、なかなかの金額です。

二〇〇二 FIFAワールドカップ日本・韓国開催に向けて、国内では、本県の「静岡スタジアム エコパ」を

はじめとして、札幌、宮城、新潟など10会場でスタジアムの改修や建設が進められています。いずれの施設も数百億円の事業費を必要としています。ワールドカップは、日韓共催となった関係から一会場で行われる試合数は、3-4試合、たったそれだけのために本場に巨額の投資が必要なのかという声が聞こえてきます。

民間調査機関によれば、静岡県でのワールドカップ開催(3試合)による経済波及効果は一五〇〇億円を上回るものと見込まれています。さらに開催効果は経済面だけではなく、ワールドカップサッカーという最高レベルのスポーツを体験することによるスポーツ文化の発展、国際交流の促進、特に韓国との相互交流や相互理解の深まりなど文化的、社会的な波及効果が期待できるとともに、地域の振興に大きく寄与するものと思われれます。

さらに、公園やスタジアムはイベント終了後には県民スポーツの拠点となり、多くの人々の交流の場や憩いの場として利用されることが見込まれ、県民の貴重な財産として将来にわたって残るわけですから、確かに大きな初期投資と、維持経費を必要としますが、決して単純に過大な投資ということにはならないと思います。ただそれも、あるだけでいいということではなく、「使われてなんぼ」で多くの人達に使われてはじめて存在価値が出ることは当然のことです。

開園後の利用方法を考えた場合、五万人収容のスタジアムや1万人収容のメインアリーナを常に満席とすることは現実の話として難しいと思います。利用の中心は、やはり地元や周辺地域の人達であり、いかに日常的に人々が訪れる公園にするかという視点で考えていかなければならないでしょう。

県では、公園の利用を促進するための仕組みや仕掛けを検討しています。年に何回かの全国規模のスポーツ競技会や文化イベント、あるいはリーグ公式戦や世界少年サッカー大会などの開催をはじめ、背後の園地や森林を使った自然観察会や各種レクリエーション大会など今までの県営公園にない幅広い利用がなされるよう計画しています。また、利用者の声を反映させた管理運営システムや、県民や企業とのパートナーシップによる公園運営など新しい取り組みも考えています。

来春の開園に向けて、小笠山総合運動公園は、ハード、ソフトとも第三コーナーを回り、最後の直線コースを走っています。



建設中の小笠山総合運動公園

本部だより

受験対策講習会を開催

静岡県造園施工管理技士会

静岡県造園施工管理技士会（乗松文男会長 会員二〇四名）は、造園施工管理技術検定試験（一級・二級）受験希望者を対象に、本年も七月二十六日、二十七日の二日間にわたって県産業経済会館で講習会を開いた。

この講習会も九回目を教え、本年の受講生は二十五名、会員二十七名、会員外八名で、内訳は一級受験希望者十四名、二級二十一名であった。

東京で実施していた講習会も通信教育へと変わり、直前の対策講習を実施している団体も少ない。それだけに静岡県造園施工管理技士会の活動は注目されている。普及は施工現場で陣頭指揮をとっている受講生も、机の前では少々勝手が違うようであったが、九月に実施される本番に向けて熱心にメモをとっていた。



熱心に聴講する受講生

講師は、常任理事があたり、関係法規：ニワユ造園建設（株）山内敏男、造園管理・設計図書：（有）小林造園、小林召二、施工監理と施工各論：天能造園建設（株）水

野豊、造園の様式と発達・造園計画・設計・植栽：天野園芸（株）望月政彦、造園施設：大昭和住宅（株）鈴木俊男、造園材料：源平造園建設（株）源平太、品質管理・機械施工と工事監理・受験要領：（株）キャンプ 乗松文男氏がそれぞれ担当した。御苦労さまでした。受講者全員、合格を祈念します。

自然環境

復元講座を開催

九月十八日、十九日の二日間にあつて、常葉学園短期大学付属環境システム研究所主催、協会共催で自然環境復元講座を静岡市紺屋町のクーパーホール会館で開いた。受講生は会員を初め、行政担当者など定員五〇名。



池内幸司専門官

復元講座は、川法史の歴史にふれた後、現在は河川管理計画は民間の意見も反映するよう制度でなり、宮崎県の北川の激甚災害復旧を事例に、良好な河川環境の保全、復元を目指すした川づくりや全国で試みられている河川の自然復元事例をオーバードヘッドプロジェクトで紹介しながら論議を加えられた。講義の中

で、建設省河川環境課専門官の池内幸司氏や会員でビオトープ設計施工では日本先駆者でもある（株）静岡グリーンサービスの桜井淳氏、富士常葉大学環境防災学部山田辰美助教授など産官学を代表する講師陣で内容の深い講座であった。



若い受講生がめだつ（講師は桜井淳氏）

で、自然復元と称しながら堤防の石は自然石を使用しているが、面をそろえ、目地をコンクリートで詰めては何も自然復元にはならないと話された。

二日間の研修を終えて自然風を石を組んだり、植物を植え込むのは我々造園建設業界が最も得意とするところ。このような研修会にはもっと積極的に参加し、研鑽を積み、これから増加が見込まれる河川工事や農業の水路整備、森林整備等における自然復元事業にもっと積極的に取り組んで欲しいと痛感させられた。

シニアワークプログラム事業 ニヶ所完了

高齢者や中途退職者の雇用促進のため労働者がシルバー人材センターに委託している事業のうち、協会では造園緑化コースを受託、実施している。

この事業には、造園緑化コース以外にもヒルマテン、介護、パソコンなどのコースがあるが、造園緑化コースは趣味を兼ねての受講生も多く人気コースのようだ。



剪定実習風景

日は十日間で、内容は造園材料、病害虫、労働安全衛生、移植、剪定、整姿、垣根作り等造園全般にわたる。講師は病害虫のみ外部より佐野利男氏を招き、残りは、川崎専務理事、木村正昭技術委員、協会副委員長をはじめとする東部受講生は二十四名で全員が八十以上の出席で終了した。

講習を終了すると最寄りの職業安定所主催による就職面接会が開かれるが、今回は就職希望者が受講生の半数以上あったものの、現況のような建設業界の情勢で求人希望の会員が多く、残念ながらお流れとなった。

最近、都市公園等の剪定を主体とする管理で、素人の管理が多いのか、見るに耐えられないような管理を、まま見受けられる。安からう悪からうの管理では何のための緑化理解できない。樹木も可愛そうである。管理作業を発注する際、このような技術講習を受けた者を雇用して、あるいは雇用する条件でブ

口の業者に発注して欲しいもの

猛暑の続く七月二十一日と九月五日の二回にわたって、東・中・西の各支部長と、技術委員長、副委員長が集まって県から協会へ委託が予定されているテーマゾーンの庭園内容と協会本部と東部・中部・西部の各支部が出展する内容の調整を行った。

県からの委託予定のガーデンについては既に「花の溪流大井川」というタイトルで企画書を提出済みで、その具体的な内容



四ツ目垣作りにも受講生

である。

そうすることによって、業界は講座終了生や高齢者を雇用する意気込みにもなり、受講生

も就職の機会が多くなる。施工監理も適格に行われ公園も本来の姿を取りもどすのではないだろうか。

これは、シニアワークプログラム事業を実施しながら、一方で実習現場等で見かける公園の管理状況を見るの感想である。いかがなものでしょうか。

しずおか緑・花・祭出展 内容を熱くぼく議論

について検討した。

大井川は石畳で表し、岩壁に咲く花を眺めながら深壁を歩くというテーマらしいが緑・花・祭開催中に見せる花は何にしようか、工事は等々議論百出。これから詰めて挿穂や苗木調達をしなければならぬ。のんびりしている余裕は全くない。

一方、本部と支部の出展については、大きなテーマのもと



出展内容を熱心に議論する支部長と技術委員

に四ブリスを合体し、その中で各支部ごとの特徴を出す。コンペには各支部ごとに応募できるよう内容を工夫する。次回までに支部委員が案をまとめる。再度、支部長と協議することにしたい。

いずれにしても、今まで都市緑化フェアで展示されていた坪庭的なものはやめて、100㎡を四つ合体しての展示。そしてまた、二〇〇四年の国際園芸博覧会を控え、県内造園建設業の技術はこんな程度かと軽んぜられないよう頑張ろう、コンペに入選したら賞金の分け前はとうするなどと意気盛んな調整会議であった。

委員会だより

技術委員会

園芸博覧会場の土壌調査を実施

協会技術委員会では、(財)静岡県グリーンバンクで施工予定地の土壌調査を委託され、残暑の厳しい九月十四日に現地調査を実施した。



炎天下の土壌調査

なかでも初めて表れた「グライ層」というやっかいな土壌である。過湿な土壌では、土壌中の酸素が不足し、還元状態となり灰色、淡青色を呈するが、この土壌で、グライ層で、自然では、河岸、湖沼、湿地周辺

の低平地や緩傾斜地、台地などの凹地に出現する。このような土壌では、還元状態から酸化していく過程で酸素を必要とするため植物にとつては酸欠状態となり、土壌に植物の根が侵入できない。このようなグライ層のできた土壌では、ヤナギ、カバ類など特殊な樹木しか生育できない。活着しても根系が伸びないので風倒の被害にあつたり、梢頭部が枯れ込んでくるという症状が表われる。

このように土壌の改良方法は、植穴の部分的改良法では、盛土・転圧され、それが不透水層となり、その上に完熟しない木材チップの層、更にその上に、置土転圧したため、酸素が欠けた還元状態になったものと思われる。

このように土壌の改良方法は、植穴の部分的改良法では、盛土・転圧され、それが不透水層となり、その上に完熟しない木材チップの層、更にその上に、置土転圧したため、酸素が欠けた還元状態になったものと思われる。

このように土壌の改良方法は、植穴の部分的改良法では、盛土・転圧され、それが不透水層となり、その上に完熟しない木材チップの層、更にその上に、置土転圧したため、酸素が欠けた還元状態になったものと思われる。

このように土壌の改良方法は、植穴の部分的改良法では、盛土・転圧され、それが不透水層となり、その上に完熟しない木材チップの層、更にその上に、置土転圧したため、酸素が欠けた還元状態になったものと思われる。



グライ層がみられる現場土壌

支部だより

西部支部

西部支部では、猛暑の続く七月十七日、浜松市地場産業振興センターで、建設省浜松工事事務所・浜松国道維持出張所長の岡田武久氏を講師に招いて研修会を開催した。

国関係の所長を講師に招くのは初めてのこと、会員一同熱心に聞き入り、意見交換もできて、国機関が地元会員にとつて身近な存在となり、大変有意義な研修会であった。

盛土・転圧され、それが不透水層となり、その上に完熟しない木材チップの層、更にその上に、置土転圧したため、酸素が欠けた還元状態になったものと思われる。

効果がなく、不透水層の破壊、未完熟堆肥のかく拌など現地土の還元的条件を除去し、十分な排水対策と通気性の改良を行う必要がある。その上で部分的な植穴部分の改良ということになる。



岡田武久所長

我が社の自慢

豊かな自然を未来へ、郷土種による緑化

(株)ひかり造園 小松庄次郎

はじめに

昨今県内の大型プロジェクトや、第二東名などで、その地域の現存植生の苗木を使用した緑化が進められている。また一方では、郷土種無用の声も聞こえて来る。そこで、我が社の実

績をふまえ、郷土種についての思いを述べる。

郷土種・本物と偽物

郷土種 (Local species) とは何かが問題となる。ここでは、遠州の自然 (No.21 別刷 (一九九八年二月) 静岡県



インギク (交雑種)

の植物分布と郷土種 (杉野孝雄) より引用すると、郷土種とは「その土地に分布する現存植生及び潜在自然植生を構成する植物」とある。この場合に、分布とは自然分布 (natural distribution) を意味する。また現存植生 (actual vegetation) とは現実 (actual) に存在している植生のことである。潜在

自然植生 (potential natural vegetation) とは今、人間の影響を一切停止したとき、その立地を生ずると判断される自然植生のことである。

と述べている。さらに「他地域の同種の植物は郷土種ではない。帰化植物も自然植生を構成する植物でないことから郷土種とはいえない。郷土種とは、対象とするその土地に分布する植物のことである。」としている。

「この論からすれば緑化対象地域に自生する植物の種子又はさし木等の栄養繁殖による苗木又は直蒔、直接挿木及び移植などの緑化は「本物」と言える。

「一方種名のみが郷土種で、緑化の材料は産地不明か、種内雑種の場合が多く、外国産の植物が使用されている場合も珍しくない。このような植物による緑化は「偽物」ということになる。

無用論

現在までに多くの法面緑化



インギク (純系)

や植栽工事が施工されてきた。しかし、何の問題も発生していないではないか、また郷土種の産地を指定しても、産地の確認は現実にはむずかしく、業者の良心によるほかにない。また、材料の調達も不可能に近い、などの「無用論」も聞こえて来る。

最も危険!! 偽物の郷土種

たしかに私たちの日常生活には何の不都合も変化も感じないのである。しかし、昨今では法面の樹林化及び郷土種 (外国

産) による緑化の名のもと各地で「ヤマハギ、コマツナギ、メドハギ、ヤシキブシ類、ヨモギ、イタドリ」などの法面への吹付けが始まった。たしかにこれらの植物名は我が県の野山に普通に自生している植物と「同名」である。しかし施工後の法面は明らかに日本の植物とは別物 (外国産) が我物顔に法面を被いつけていて、なにか不気味な怪物を見る思いがする。特に中国産の「コマツナギ」は高さ2メートルにも育ち、県内に自生している「コマツナギ」を知る人は、明らかに別ものと思われるはずである。県内産のコマツナギは高さ1メートル足らずで、立ち上がらない) また「ヨモギ」なども同様で、いままで見馴れたものとは明らかに別物である。ではなぜ国外の植物が気がかりなのか、まず同種であっても長い間隔離されていた為、同名であっても、すでに種の分化が始まっていると考えられるからである。また最も心配されるのは、地域の近縁種との交雑による遺伝子汚染である。以前に海浜植物の「イソギク」の種子を蒔いたことがある。数年後化が咲いて驚いたが、約一、五〇〇株中、約25株はイソギクとは似ても似

つかない花を咲かせた。明らかに私の採取したイソギクのコロニーの種子は純系とは言えず、おそらく栽培品の「キク」と交雑したものであろう。「こ」で話しを郷土種にもどすと、同様なことが、「二七物」の郷土種と地域の近縁種の間にも必ず起こる。もしも一度現存植生の遺伝子が純系を失えば、もう二度ともどにはもどせない。また植生でどんな影響があるのかは不明で或る以上、「二七物」の郷土種は最も危険である。

郷土種の入手について

現在、正確な産地と特定された郷土種の苗木を地域別に多種類揃えている業者は少ない。また郷土種のほとんどの種は注文生産となる。納期は注文から10ヶ月〜12ヶ月後には、一部の種を除いては出荷可能である。また郷土種の導入については、当社でアドバイスいたします。

おわりに

郷土種の運用については、私と違った御意見の方々もいらっしゃるを(思い)ます。しかし豊かな自然を(遺)伝遺産を未来へ残すことは私たちの義務ではないでしようか。

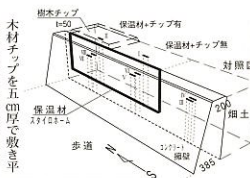
植樹枠内の樹木枯損防止のための地温上昇抑制の試み

(有)小林造園 時田 純

当社では街路樹や公園、駐車場等の植樹枠内の樹木の枯損防止を少しでも軽減できないか、という観点から夏夏の地温上昇の抑制試験を行ってみました。地温は根そのものの樹長にも大きな影響があるが、樹木の活着、生長に最も影響する土壌水分の蒸散作用を左右する因子の一つである。



測定地の状況



木材チップを五cm厚で敷き平均して温度変化を測定した。その結果として次のよう

なことが明らかになった。

●断熱材の効果

一、何も処置しない対照区では、午後緑石に日が当たりに始めて次第に地温が上昇

| 測点 | 項目 | 測定結果 C 0:00~24:00 | | | | 平均値 |
|--------------------------------------|----|-------------------|------|------|------|------|
| | | 1 | 2 | 3 | 4 | |
| I 地表 GL-1cm チップ無 | 最高 | 40.1 | 45.3 | 40.5 | 45.0 | 42.7 |
| | 最低 | 23.1 | 22.0 | 22.1 | 22.0 | 22.3 |
| | 平均 | 28.4 | 28.4 | 28.0 | 28.3 | 28.3 |
| II 地表 GL-1cm チップ有 | 最高 | 30.2 | 31.8 | 30.9 | 29.8 | 30.7 |
| | 最低 | 27.5 | 27.1 | 25.2 | 25.2 | 26.3 |
| | 平均 | 28.7 | 28.5 | 27.5 | 27.1 | 28.0 |
| III 対照区 GL-20cm w=0cm | 最高 | 33.6 | 33.6 | 33.3 | 32.7 | 33.3 |
| | 最低 | 28.4 | 28.9 | 28.6 | 28.4 | 28.6 |
| | 平均 | 30.5 | 31.3 | 31.0 | 30.7 | 30.9 |
| IV 対照区 GL-20cm w=5cm | 最高 | 32.4 | 32.6 | 32.2 | 31.8 | 32.3 |
| | 最低 | 28.5 | 29.0 | 28.8 | 28.6 | 28.7 |
| | 平均 | 30.5 | 30.8 | 30.6 | 30.4 | 30.6 |
| V 保溫材 GL-20cm w=0cm チップ無 | 最高 | 35.0 | 35.0 | 34.5 | 33.6 | 34.5 |
| | 最低 | 28.4 | 29.0 | 28.5 | 28.3 | 28.6 |
| | 平均 | 31.0 | 31.9 | 31.5 | 31.1 | 31.4 |
| VI 保溫材 GL-20cm w=5cm チップ有 | 最高 | 30.4 | 30.6 | 30.5 | 30.3 | 30.5 |
| | 最低 | 28.4 | 28.7 | 28.4 | 28.3 | 28.5 |
| | 平均 | 29.3 | 29.7 | 29.5 | 29.4 | 29.5 |
| VII 保溫材 GL-20cm w=0cm チップ有 | 最高 | 34.9 | 35.0 | 34.7 | 33.6 | 34.6 |
| | 最低 | 28.2 | 28.9 | 28.4 | 28.2 | 28.4 |
| | 平均 | 30.9 | 31.9 | 31.5 | 31.0 | 31.3 |
| VIII 保溫材 GL-20cm w=5cm チップ有 | 最高 | 30.0 | 30.0 | 30.0 | 29.8 | 30.0 |
| | 最低 | 28.7 | 28.8 | 28.6 | 28.4 | 28.6 |
| | 平均 | 29.2 | 29.5 | 29.3 | 29.1 | 29.3 |

効果があるが、チップに保溫効果があるため最低地温は逆に

測定はできなかった。

●樹木チップの効果

一、当然のことであるがチップを敷いた場合、地表六cmの所で

は最高地温を一〇℃も下げる効果があるが、チップに保溫効果があるため最低地温は逆に測定はできなかった。

一、当然のことであるがチップを敷いた場合、地表六cmの所で

は最高地温を一〇℃も下げる効果があるが、チップに保溫効果があるため最低地温は逆に測定はできなかった。

一、当然のことであるがチップを敷いた場合、地表六cmの所で

は最高地温を一〇℃も下げる効果があるが、チップに保溫効果があるため最低地温は逆に測定はできなかった。

一、当然のことであるがチップを敷いた場合、地表六cmの所で

は最高地温を一〇℃も下げる効果があるが、チップに保溫効果があるため最低地温は逆に測定はできなかった。

一、当然のことであるがチップを敷いた場合、地表六cmの所で

は最高地温を一〇℃も下げる効果があるが、チップに保溫効果があるため最低地温は逆に測定はできなかった。

一、当然のことであるがチップを敷いた場合、地表六cmの所で

は最高地温を一〇℃も下げる効果があるが、チップに保溫効果があるため最低地温は逆に測定はできなかった。

一、当然のことであるがチップを敷いた場合、地表六cmの所で

は最高地温を一〇℃も下げる効果があるが、チップに保溫効果があるため最低地温は逆に測定はできなかった。

一、当然のことであるがチップを敷いた場合、地表六cmの所で

は最高地温を一〇℃も下げる効果があるが、チップに保溫効果があるため最低地温は逆に測定はできなかった。

一、当然のことであるがチップを敷いた場合、地表六cmの所で

は最高地温を一〇℃も下げる効果があるが、チップに保溫効果があるため最低地温は逆に測定はできなかった。

一、当然のことであるがチップを敷いた場合、地表六cmの所で

は最高地温を一〇℃も下げる効果があるが、チップに保溫効果があるため最低地温は逆に測定はできなかった。

一、当然のことであるがチップを敷いた場合、地表六cmの所で

は最高地温を一〇℃も下げる効果があるが、チップに保溫効果があるため最低地温は逆に測定はできなかった。

一、当然のことであるがチップを敷いた場合、地表六cmの所で

は最高地温を一〇℃も下げる効果があるが、チップに保溫効果があるため最低地温は逆に測定はできなかった。

一、当然のことであるがチップを敷いた場合、地表六cmの所で

は最高地温を一〇℃も下げる効果があるが、チップに保溫効果があるため最低地温は逆に測定はできなかった。

グラウンドは穴だらけ

新鋭機械で芝生“再生” ～浜松～

話題の森



10数cmに掘り出された土。これが長いのが新型の特徴で武器だ



ソーセージのように転がる掘り出された土。芝生の根も交じっている。
—浜松市都田町の本田技研サッカー場

吸寄せをせずに、裏の地に覆れた芝生を風とこいたと云った。
作業を行ったのは、ロボ整田の整備場なども管理する、駿井市の「ハケ代整田」(ハケ代第一社)だ。「ジーリー」が始めて「サッカー」場が増

浜松市都田町の本田技研都田サッカー場で、最新式の機械を使って芝生の更新作業が行われた。試合で見慣れた一面の芝に現れたのは、グリーン「トレッド」と名前が付いた穴掘りトラクター。フォークのような鉄パイプの穴に、土を指の太さで柱状に切り取り、土の中の草根にダメージを与えて、裏の地に覆れた芝生を風とこいたと云った。



鉄パイプから放り出される土は柱状

土の中の根に呼吸促す

え、芝生管理の要は増える一方で、競争も激しい。機械が進入してやる。中でも芝生更新には必要作業。放っておくと根が固まって排水も悪くなり、グラウンドはチカチカに腐る。その穴掘りトラクターは、土の中の草根を柱状に切り取り、土の中の草根にダメージを与えて、裏の地に覆れた芝生を風とこいたと云った。作業は「ジーリー」が始めて「サッカー」場が増

え、芝生管理の要は増える一方で、競争も激しい。機械が進入してやる。中でも芝生更新には必要作業。放っておくと根が固まって排水も悪くなり、グラウンドはチカチカに腐る。その穴掘りトラクターは、土の中の草根を柱状に切り取り、土の中の草根にダメージを与えて、裏の地に覆れた芝生を風とこいたと云った。作業は「ジーリー」が始めて「サッカー」場が増

平成十二年九月八日 静岡新聞

早いもので本年度も第四半期が過ぎ去り、第四半期に入りまして、前号から始めた「我が社の自慢」、読者に好評です。本号でも二社から投稿いただきました。次号は一月発行です。投稿をお待ちしております。

●来年の静岡交流会は十一月八日(土)、静岡市のパーク東海静岡で開催します。ご予約下さい。

●お知らせ
しずおか緑花・祭まで余すところ五ヶ月、協会の本部出張、支部展示のブリスは四区画合体して出展することに決定していたが、その構想図が飯田技術委員長と木村副委員長から提示されたので十月三日、協会事務室で技術委員長、副委員長、各支部長出席のもとに三回目の検討会を開いた。メンバーから熱のこもった意見が出され、当初、合体施工のもとコンベには本部・支部ごとに参加しようとしていたが、図面をひいてみる描いてみるとそれは難しいということになり、コンベには合同で参加することになった。図面も近々完成するので次号の会報でお知らせできると想っています。

●来年度の静岡交流会は十一月八日(土)、静岡市のパーク東海静岡で開催します。ご予約下さい。